

【特徴】

小児神経内科では小児脳神経外科、小児救急科等の小児部門、ICU・ECU、リハビリテーション科などとの連携により、救急対応が必要な小児神経疾患から障害児の包括医療まで総合的に診療を行っている。また療育相談室と協力して、医師以外の医療職、教育職などと連携をとりながら、患児とその家族に必要な情報提供を行っている。

【研修目標】

1. 一般目標

主な神経疾患、筋疾患について診断と治療ができる。年齢に応じた発達、神経学的症候についての知識を有し診断ができる。画像診断、脳波検査などの神経疾患に必要な検査につき施行、評価できる。小児神経科において汎用される薬物について適切に使用できる。

2. 行動目標

- (1) てんかんの国際分類を理解し、てんかん症候群分類、発作型につき診断し治療計画が立てられる。薬物治療については副作用を理解し実施できる。脳波検査を実施でき判読できる。検査施行に際しては眠剤導入を安全に施行できる。熱性けいれん、憤怒けいれんについて診断・治療ができる。
- (2) ADEM（急性散在性脳脊髄炎）、ギラン・バレー症候群などの免疫性神経疾患につき診断し治療できる。
- (3) 神経筋疾患：重症筋無力症、筋ジストロフィーについて診断し、治療計画が立てられる。
- (4) 代表的な先天異常症候群、染色体異常症の臨床診断ができる。疾患と合併症について必要な検査を実施できる。顔貌の異常、外形奇形など正しく記載し鑑別診断ができる。
- (5) 臨床症候、検査所見から先天代謝異常を疑い、スクリーニングができる。指導医と協力して治療可能な疾患については継続的な治療ができる。
- (6) 臨床遺伝学の基礎知識を有し、小児神経科領域の疾患について説明できる。家系図記載、診察ができ遺伝相談の基本を説明できる。
- (7) 発達障害につき診断できる。発達検査（KIDS、遠城寺式発達検査など）を実施できる。
- (8) 睡眠障害について、診断し治療計画が立てられる。睡眠ポリグラフ検査が実施できる。
- (9) 頭痛の国際分類を理解し、頭痛の原因、病型診断をするための診察、検査を施行し診断できる。原因、病型に応じた治療ができる。
- (10) 重症心身障害児における合併症（胃食道逆流症、呼吸障害など）に対し、関連各科との連携のもと評価、治療ができる。

【方略】

- (1) 入院患者について神経学的所見をとる。指導医のもと鑑別診断をおこない、検査および治療計画を立てる。指導医のもと診療録に記載する。
- (2) ビデオ・脳波同時記録、腰椎穿刺などの処置について緩和医療のもと実践する。
- (3) けいれん重積、意識障害の救急処置を指導医のもと実施する。3次救急についてICU・ECUとの連携にて対応する。
- (4) 毎週実施している科内カンファレンスにおいて症例提示を行う。毎週の看護師とのカンファレンスで意見交換を行う。
- (5) 経験した症例に関連する演題で学会発表を少なくとも1回はおこなう。

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

【見学等問い合わせ先】

小児神経内科部長 川脇 壽